

令和2年2月28日

令和元年度 特別の教育課程の実施状況等について

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2020年には東京オリンピックサッカー競技の開催が予定されている。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

(3) 特例の適用開始日

2007年4月

2018年4月 変更

(4) 取組の期間

2030年4月まで

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ⊙計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ⊙実施している
- ・実施していない

(3) 第1学年児童による評価

- ① 外国語活動の時間は、楽しいですか。
- | | | | |
|--------------|-------|------------|-------|
| 楽しい | 85.7% | どちらかという楽しい | 14.3% |
| どちらかという楽しくない | 0% | 楽しくない | 0% |
- ② ALTと英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。
- | | | | |
|--------------|-------|------------|-------|
| 楽しい | 62.1% | どちらかという楽しい | 34.5% |
| どちらかという楽しくない | 0% | 楽しくない | 3.4% |
- ③ 英語を話せるようになりたいですか。
- | | | | |
|---------------|-------|-------------|------|
| なりたい | 96.3% | どちらかというなりたい | 3.7% |
| どちらかというなりたくない | 0% | なりたくない | 0% |
- ④ 外国のことをもっと知りたいですか。
- | | | | |
|---------------|-------|-------------|-------|
| 知りたい | 73.1% | どちらかという知りたい | 26.9% |
| どちらかという知りたくない | 0% | 知りたくない | 0% |

(4) 第2学年児童による評価

- ① 外国語活動の時間は、楽しいですか。
- | | | | |
|--------------|-------|------------|------|
| 楽しい | 85.7% | どちらかという楽しい | 5.7% |
| どちらかという楽しくない | 0% | 楽しくない | 8.6% |
- ② ALTと英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。
- | | | | |
|--------------|-------|------------|-------|
| 楽しい | 69.4% | どちらかという楽しい | 19.4% |
| どちらかという楽しくない | 5.6% | 楽しくない | 5.6% |
- ③ 英語を話せるようになりたいですか。
- | | | | |
|---------------|-------|-------------|-------|
| なりたい | 73.5% | どちらかというなりたい | 26.5% |
| どちらかというなりたくない | 0% | なりたくない | 0% |
- ④ 外国のことをもっと知りたいですか。
- | | | | |
|---------------|-------|-------------|-------|
| 知りたい | 75.8% | どちらかという知りたい | 24.2% |
| どちらかというなりたくない | 0% | なりたくない | 0% |

(5) 教職員による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	67.7%	どちらかというと思う	25.8%
どちらかというと思わない	6.5%	思わない	0%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。

思う	77.4%	どちらかというと思う	22.6%
どちらかというと思わない	0%	思わない	0%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化（生活、習慣、行事等）に対する興味・関心が高まっていると思いますか。

思う	54.8%	どちらかというと思う	35.5%
どちらかというと思わない	9.7%	思わない	0%

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。（自由記述）

- ・あまり難しくなく、取り組みやすいものであること。

- ・オリンピック目前、これから海外の方と接する機会も増えるかもしれません。そんな時に、普段から少しでも外国語に触れていることが自信につながり、壁を作らずに海外の方と接することができるようになって欲しい。

- ・これからは、国際化してくるのでなるべく早い時期に外国語を覚えていたほうが良いと思う。また、1・2学年からのほうが覚え易い。

- ・ネイティブの発音を聞くことにより、耳が慣れてほしい。speaking と listening を重点に。

- ・まずは単純に、世界は広いということを知ること。日本が全て、鹿嶋市が全てみたいな狭い思考にならないように、自分は広い世界のほんの一部のことしか見てきていなくて、世界には多種多様な人間がいる。そしてそれぞれに大切にしている文化があるのだという感覚を身に付けること。会話を学ぶ、単語や文法を覚えるのはその後からで構わないと思う。まだまだ柔軟な心をもつ低学年のうちから、多様な人種や文化に触れて、それを受け入れる感覚は友人関係にも派生して偏見をなくし、いじめ防止にも繋がる気がする。

- ・英検受験

- ・英語という語学を楽しく学べることと今後のコミュニケーション英語を学んでいくためのきちんとした土台作りをして頂きたい。

- ・英語に慣れ親しんで、抵抗なく英語を話せるようになること。日常会話ができるようになること。
- ・興味関心、コミュニケーション能力の向上。

(6) 保護者及び学校関係者による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	58.4%	どちらかというと思う	35.4%
どちらかというと思わない	4.4%	思わない	1.8%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。

思う	76.1%	どちらかというと思う	19.5%
どちらかというと思わない	3.5%	思わない	0.9%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化（生活、習慣、行事等）に対する興味・関心が高まっていると思いますか。

思う	45.1%	どちらかというと思う	45.1%
どちらかというと思わない	8.0%	思わない	1.8%

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。（自由記述）
・児童が成長するにつれてコミュニケーションのツールの1つとして、身近なものになることを期待したい。

- ・簡単な日常会話が（単語でも）できること。
- ・外国人の方に躊躇せず話しかけている姿を見ると成果はあるのかなと感じる。
- ・関わる・コミュニケーションを図ろうとする力が伸ばせたらいい。
- ・外国語を聞く力の育成
- ・外国の人に対する親和的な態度
- ・英語を難しいものだと思わず、気軽に取り組めるものであること。身近に感じられ、興味・関心を高められるものであること。
- ・英語に慣れ親しみ、抵抗なく英語を話せるようになることを期待している。
- ・英語で話すことを怖がらず、積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度の育成

- ・せっかくのネイティブのALTなので、フォニックスの発音や、多読などを一緒に行えたらいいなと感じる。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校においては、低学年のうちから外国語活動を行うことにより、ALTとも躊躇することなく、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育ってきている。外国の文化や言語に親しむことで、グローバルな社会で自分を表現する素地ができ、そのことが本校の教育の目標である「個性を生かして学ぶ児童の育成」に繋がっていると考える。

課題としては、資質・能力のつながりをさらに意識した指導計画の作成であると考ええる。学年間のつながりを教師が理解し、単元同士のつながりを考え、単元を通してどのように資質・能力を育成すればよいかを見通すことが大切である。

やり取りする場面では、相づちやつなぎ言葉、ジェスチャーなども使いながら会話をし、英語でコミュニケーションを図る楽しさをより味わえるよう工夫することも課題である。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校においては、第1学年から外国語活動を実施してきた第6学年対象外部調査「小学校英検トライアル」において、129人中113人が「よくできました」、15人が「もう少し」、1人が「がんばりましょう」という結果であった。

第1学年から外国語活動を実施することにより、リスニング・リーディングの2技能において、低学年のうちから英語に慣れ親しんだことで、英語の発音に慣れ、簡単な英文を聞き取るための基礎的な能力が身に付くことが明らかとなった。

一方で、スピーキングにおいては、自発的なコミュニケーションが不十分という課題もある。やり取りを楽しむ場面やペアで対話する場면을繰り返し設定することにより、児童が自信をもって英語で話したり聞いたりすることができるようになることを考える。目的を明確にした活動を設定するとことにより児童の主体的な取組を目指したい。

4. 課題の改善のための取組の方向性

3に示すような課題を踏まえて、「Small Talkなどの言語活動を中心とした指導の工夫」という方向で本特例の改善を図ることが必要と考えられる。そのためには、英語を使ってやり取りする場を設定し、インプットされた語句を積極的にアウトプットする機会を多く設けるように工夫していきたい。